

2020年度入学生 幼児教育学科カリキュラムマップ

【幼児教育学科のディプロマポリシー】										
①幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。 ②幼児教育・保育に必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力を身に付けている。 ③保育者としての使命や社会的責任を自覚し、子どもが健やかに育つ社会の実現に向けて行動することができる。 ④多様な社会において、他者を尊重し、相互理解を深めて協働しようとする意欲や関心を持ち、生涯にわたって主体的に学び続ける姿勢を有している。										
【幼児教育学科のカリキュラムポリシー】										
①幼稚園教諭・保育士にふさわしい能力を育てるために、専門的な方法論と知識を体系的に学ぶことを目的に、専門科目、幼稚園教諭二種免許取得に関する科目、保育士資格取得に関する科目を設置する。 ②知識の活用能力、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、表現力、コミュニケーション力など、社会生活において必須となる一般的な能力を育成するために、研究やディスカッションを実践的に積み上げる参加型の少人数授業を開講する。 ③高い倫理性に裏付けされた保育者としての実践力を育てるために、教養科目及び専門科目の充実を図り、ていねいな個別指導を実施する。										
分類	授業科目名	開講期				授業科目の到達目標	幼児教育学科の学修成果			
		1年次 2020		2年次 2021			(◎＝達成のために、特に重要な事項 ○＝達成のために、重要な事項)			
		前期	後期	前期	後期		1-1	2-1	3-1	3-2
領域及び保育内容の指導法に関する科目	国語				○	①幼児期からの言葉に関する成長過程が理解できる。 ②幼児に優れた言語環境を提供すべき保育者としての基本的な言語能力を習得することができる。	◎	○		
	算数				○	①子供の 数学的概念がどのように形成されていくのかを理解することができる。 ②社会人として必要な数理的教養と数学的なものの見方、論理的思考力を身に付けることができる。	◎	○		
	生活				○	①「生活科」を創るための指導計画の作成や指導の在り方、教材研究・教材開発の進め方を理解することができる。 ②小学校のスタートカリキュラムについての理解を深め、幼児期からの接続を考慮した指導の在り方を学ぶことで、保育者としての資質を高めることができる。	◎	○		
	音楽(器楽)A1	○				①ピアノ演奏の基礎力を身に付ける。 ②弾き歌いができるようになる。 ③保育現場に適した楽曲が演奏できるようになる。	◎	◎		
	音楽(器楽)A2	○				①実際の教育現場で実用できる音楽・リズム教育について考え実習によってそれを身に付けることができる。 ②音楽の基礎的な表現の能力を育て音楽表現の楽しさを伝えられるようになる。	◎	◎		
	音楽(器楽)B		○			①ピアノ演奏の基礎力や応用力を身に付ける。 ②弾き歌いができるようになる。 ③保育現場に適した楽曲が演奏できるようになる。 ④保育現場でピアノやリズム楽器を用いて音楽を表現できるようになる	◎	◎		
	音楽(器楽)C			○		①保育現場での音楽活動のためにピアノの応用演奏ができるようになる ②自分の思いを音で表現できるようになる	◎	◎		
	音楽(歌唱)A	○				無理のない自然な発声法で正しく表情豊かに音楽表現することができるようになる。	◎	◎		
	音楽(歌唱)B		○			①歌唱Aを発展させた歌唱表現を身に付けることができるようになる。 ②コールユーブンゲンのリズムや音程の基礎訓練を七度音程まで身に付けることができるようになる。 ③ソルフェージュの♯・♭各3までの調を理解できるようになる。	◎	◎		
	音楽(歌唱)C			○		①歌を学ぶことによって、楽曲の本質を見抜いた表現ができるようになる。 ②歌唱の自己表現を確かなものとし、レパートリーを増やしつつも演奏できるようになる。	◎	◎		
	図画工作			○		①子どもの造形の発達や特性について理解を深め、様々な材料や用具、表現方法に触れ、その特質を理解し、子どもの造形表現活動の援助や指導計画に取り組むことができる。 ②自分の想いや考えを作品として表現することや、グループでの対話や共同制作に積極的に取り組むことができる。 ③子どもたちに表現の楽しさを伝えることができるよう、自らも造形表現活動に関心を持ち、楽しむことができるようになる。	◎	◎		
	体育		○			①幼児の発達の特性と運動の内容について理解できるようになる ②幼児保育に必要な基礎的能力を習得し指導ができるようになる。	◎	○		
	保育内容の指導法(健康)	○				乳幼児期における子どもの心身の基礎的健康に関わる領域や知識について学ぶとともに、具体的な楽しい遊びを探索し、模擬保育を通して保育者としての実践力を身に付けることができる。	◎	○		
	保育内容の指導法(人間関係)	○				乳幼児が人とかかわる力を身に付けていく過程や、発達の道筋をとらえるなど「人とかかわる力の基礎」を理解し、保育者の資質を養うことができる。	◎	○		
	保育内容の指導法(環境)		○			保育者自身が子どもにとって最も影響力の大きい環境であることを自覚し、望ましい環境を構成する実践力を身に付けることができる。	◎	○		
	保育内容の指導法(言葉)	○				子どもが言葉を獲得する過程や、一人一人の発達に応じた適切な援助を理解するとともに、言葉による自己表現を豊かにしていくための保育者の役割を理解し、実践力を付けていくことができる。	◎	○		

2020年度入学生 幼児教育学科カリキュラムマップ

分類	授業科目名	開講期				授業科目の到達目標	幼児教育学科の学修成果 (◎＝達成のために、特に重要な事項 ○＝達成のために、重要な事項)				
		1年次 2020		2年次 2021			1-1	2-1	3-1	3-2	
		前期	後期	前期	後期		幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。	幼児教育・保育に必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力を身に付けている。	保育者としての使命や社会的責任を自覚し、子どもが健やかに育つ社会の実現に向けて行動することができる。	多様な社会において、他者を尊重し、相互理解を深めて協働しようとする意欲や関心を持ち、生涯にわたって主体的に学び続ける姿勢を有している。	
指 導 域 法 及 び 関 係 育 育 内 容 目 的	保育内容の指導法(表現)			○		①領域「表現」の表現のねらい及び内容並びに全体構想を理解している。 ②子どもの発達と表現活動の特性について理解している。 ③教材や情報機器の活用方法を理解し、多様な表現方法に触れ、幼児の表現活動に必要な基礎知識と技能を身につけている。 ④指導案の構成を理解し、指導案の作成及び模擬保育の実践を通して、表現活動を構想することができる。	◎	○			
	保育内容の指導法A			○		子どもの遊びにかかわる基礎的な知識やその意義について学ぶとともに、子どもが楽しめる保育を構想し実践していく力を修得できるようにする。	○	◎			
	保育内容の指導法B				○	保育の立案から実践に至る演習過程を通して、保育の構成と方法、必要な技能を修得することができる。	○	◎			
	保育内容の指導法C				○	①自分自身が、生活の中で感じたこと考えたことを、身体の動きで表現できるようになる。 ②音楽、遊具、用具などを使った身体表現や劇遊びなどの経験もと入れ指導ができるようになる。	○	◎			
教 育 の 基 礎 的 理 解 に 関 する 科 目	教職原論			○		求められている教員の役割や職務内容について理解を深めるとともに、教員としての必要な資質や能力をつけていく意欲や態度、方法の修得できるようにする。	◎	○			
	教育原理(教育史及び社会的、制度的又は経営的事項を含む)			○		①「教育」の営みを原理的に理解することができる。 ②「教育」についての研究や実践を進めていく上で必要な教育諸分野についての基礎知識を習得することができる。 ③「教育」を歴史的な視点から捉えることができる。	◎			○	
	教育心理学				○	①教育心理学の基本用語を理解し、正確に覚えることができる。 ②幼児・児童・生徒の発達や行動を教育心理学的な観点から解釈し、適切な支援と指導ができるようになる。	◎	○			
	特別支援教育				○	特別の支援を必要とする幼児への理解と組織的な対応や知識、支援方法について理解することができる。	◎			○	
	教育課程論				○	教育課程についての意義や編成の方法およびカリキュラム・マネジメントを行う意義について理解することができる。	◎			○	
	教育課程論演習				○	演習を通して、子どもの発達の捉え方や幼児理解を深めていくとともに、教育課程、指導計画についての理論と実際を学び、カリキュラム・マネジメントについての理解を深めるようにする。		◎		○	
法 道 及 徳 び 、 生 徒 合 指 導 的 指 導 学 習 等 相 談 指 導 等	教育の方法・技術				○	①幼児教育の方法・技術の基本を学ぶことができる。 ②幼児理解を深めながら保育者としての姿勢や態度を身に付けることができる。 ③ICT等の情報機器及び教材の活用についても最新の知識を得ることができる。	◎	○			
	幼児理解の理論・方法				○	幼稚園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学びおよびその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることができるようになる。		◎		○	
	教育相談の理論・方法(カウンセリングを含む)				○	①幼児の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉えることができる。 ②支援するために必要な基礎知識(カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎知識を含む)を習得するようになる。		◎		○	
教 育 実 践 に 関 する 科 目	教育実習指導				○	①教育実習の意義・目的・実習生としての心構え等を学び、幼稚園実習を突り多いものにするための幼児理解や観察の視点と方法、教材研究を行い保育指導案の作成ができるようになる。 ②先輩の実習の記録や研究保育の映像記録の分析、模擬保育によって、実習現場でもっとも必要な保育指導力を身に付けることができる。		○		◎	
	教育実習				○	○	各幼稚園での教育実習を通じて、保育者の役割についての認識を深め、確かな学級経営力、保育指導力、保育者としての資質を身に付けることができる。		○		◎
	保育・教職実践演習(幼稚園)				○	①実習で学んだ子どもへの理解や援助、施設の機能とそこでの保育者の役割についての認識を深めることができる。 ②使命感や責任感、社会性や対人関係能力、また、学級経営力や保育指導力を高め、保育者としての資質を向上することができる。				◎	○

2020年度入学生 幼児教育学科カリキュラムマップ

分類	授業科目名	開講期				授業科目の到達目標	幼児教育学科の学修成果 (◎＝達成のために、特に重要な事項 ○＝達成のために、重要な事項)			
		1年次 2020		2年次 2021			1-1	2-1	3-1	3-2
		前期	後期	前期	後期		幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。	幼児教育・保育に必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力を身に付けている。	保育者としての使命や社会的責任を自覚し、子どもが健やかに育つ社会の実現に向けて行動することができる。	多様な社会において、他者を尊重し、相互理解を深めて協働しようとする意欲や関心を持ち、生涯にわたって主体的に学び続ける姿勢を有している。
教職 関連 科目	教育情報処理演習		○			①幼稚園や保育園に限らず、コンピュータを利用して効率的に各種事務業務を行えるようになる。 ②文書を構造化することの意味と論理的な文書作成の関係を理解することができる。 ③レポート、小論文といったアカデミックな文書に留まらず職場で求められる事務業務作成についての基礎的な理解ができる。		○		◎
	学科特別演習Ⅰ (担当:大西 真弓)			○		①色、形、大きさ、全体のバランス、効果的な配置等を意識しながらエプロンシアターを作成することができる。 ②実践を通して幼児理解を深め、保育実践力を身に付けることができる。 ③ここにクラブにおける親子のかかわりを通して、子育て支援について学ぶことができる。	◎	○		
	学科特別演習Ⅰ (担当:川村 高弘)			○		①保育にとつての遊びや表現活動とは何かを理解することができる。 ②保育者として遊びや表現活動における実践力を身に付けることができる。	○	◎		
	学科特別演習Ⅰ (担当:桐原 美恵子)			○		①子どもの興味や関心、感性等を育む保育者の役割について理解できるようになる。 ②様々な役を演じたり、身近なものからのお話づくりをしたりすることを通して、想像力を養いその場に応じた言葉かけや振る舞いなど保育者としての基本的な資質を身に付け、保育実践力を高めることができる。		◎	○	
	学科特別演習Ⅰ (担当:小松原 祥子)			○		①リトミックの理念に基づいた表現をすることができる。 ②音楽を通して保育実践力を身に付けることができる。 ③保育の理論的背景に基づいた音楽遊びを提案し、表現できる。	◎	○		
	学科特別演習Ⅰ (担当:塚田 みちる)			○		①園での子どもの生活の様子や、地域の親子との実際的なやり取りを通して、子どもの健全な心の育ちのありようを理解することができる。 ②保護者の子育てへの思いについて理解し、保育学生の今だからこそできる子育て支援について考えられるようになる。			◎	○
	学科特別演習Ⅰ (担当:永井 久美子)			○		積極性と意欲を持って多くを吸収し、乳児に向き合う大人としての自覚を持ち、保育実践力を高めることができるようになる。	○	◎		
	学科特別演習Ⅰ (担当:辻田 美和)			○		保育者としての美的感性を育み、子どもの楽しい造形表現活動を支援するための実践力を身に付けることができる。	○	◎		
	学科特別演習Ⅰ (担当:畠山 由佳子)			○		自分が感じたことを的確に言葉で表現することに自信を持つことができる。			◎	○
	学科特別演習Ⅰ (担当:山内 有香子)			○		①子供の発達を理解し、絵本を使って保育者としての実践につながる力を身に付けることができる。 ②見通しをもって課題に取り組み、自主的に課題を解決しようとすることができる。	○	◎		
	学科特別演習Ⅰ (担当:矢野 真理)			○		子どもの心身の健康問題について理解を深めることができる。	○			◎
	学科特別演習Ⅱ (担当:大西 真弓)			○		①演じ方の工夫や表現力を高めること、各自の役割遂行に責任をもつこと、協同する喜びを味わうこと等から、保育実践力を高めることができる。 ②ここにクラブにおける親子のかかわりを通して、子育て支援について学ぶことができる。	○	◎		
	学科特別演習Ⅱ (担当:川村 高弘)			○		①保育にとつての遊びや表現活動とは何かを理解を深めることができる。 ②保育者としての実践力を修得することができる。	○	◎		
	学科特別演習Ⅱ (担当:桐原 美恵子)			○		子どもの気持ちを理解し支える保育者、子どもと共に様々な活動を楽しむ保育者としての実践力を身に付けることができる。		◎	○	
	学科特別演習Ⅱ (担当:小松原 祥子)			○		①テーマに基づいた多様な音楽表現ができるようになる。 ②園での発表会において、音楽を付けることができる表現力を養う。 ③音楽を通して保育実践力を身につけることができる。	○	◎		
	学科特別演習Ⅱ (担当:塚田 みちる)			○		①園での子どもの生活の様子や、地域の親子との実際的なやり取りを通して、子どもの健全な心の育ちのありようを理解できる。 ②保護者の子育てへの思いを理解し、保育学生の今だからこそできる子育て支援について考えられるようになる。			○	◎
	学科特別演習Ⅱ (担当:永井 久美子)			○		乳児の発達の特性や発達過程を踏まえた、保育実践力を高めることができるようになる。			○	◎
	学科特別演習Ⅱ (担当:辻田 美和)			○		保育者としての美的感性を高め、子どもの造形表現活動をより楽しいものにするための実践力を身に付けることができる。				
	学科特別演習Ⅱ (担当:畠山 由佳子)			○		明確に自分の考えを研究という枠組みで発表する力を身につけることができる。			○	◎
	学科特別演習Ⅱ (担当:山内 有香子)			○		①子供の発達をふまえた題材を考えて絵本を作ることを通して、保育者としての実践力を高める。 ②見通しをもって課題に取り組み、自主的に課題を解決するとともに発表する力を身に付ける。		◎		○
学科特別演習Ⅱ (担当:矢野 真理)			○		各自が関心を持ったテーマに取り組み、レポートにまとめることができる。		○	◎		

2020年度入学生 幼児教育学科カリキュラムマップ

分類	授業科目名	開講期				授業科目の到達目標	幼児教育学科の学修成果						
		1年次 2020		2年次 2021			(◎＝達成のために、特に重要な事項 ○＝達成のために、重要な事項)						
		前期	後期	前期	後期		1-1	2-1	3-1	3-2			
連教科職目録	保育者のキャリア形成論		○			①社会に参画するとはどういうことなのかを把握し、子どもや保護者、同僚とより良い人間関係を築いていかなければならない保育者としてのキャリアデザインを描くことができる。 ②コミュニケーション能力や豊かな表現力をもち合わせた保育者になるための基礎的知識・技術を修得することができる。		○	◎		多様な社会において、他者を尊重し、相互理解を深めて協働しようとする意欲や関心を持ち、生涯にわたって主体的に学び続ける姿勢を有している。		
保育に関する専門科目	保育原理		○			①保育の意義や目的について理解することができる。 ②保育に関する法令や制度について理解することができる。 ③保育保育指針における保育の基本について理解することができる。 ④保育の思想と歴史的変遷について理解することができる。 ⑤保育の現状と課題について理解することができる。	◎			○			
	子ども家庭福祉				○	子どもとその家族に対する専門職に必要な価値・技術・知識をもつことができる。	◎				○		
	社会福祉		○			①固定観念ではなく、独自の理解のなかで社会福祉の考え方とそのイメージをもつことができる。 ②社会福祉に関わる諸問題、制度、法律などの概要を知ることができる。	◎						
	子ども家庭支援論				○	①子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解できるようになる。 ②保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解できるようになる。 ③子育て家庭に対する支援の体制について理解できるようになる。 ④子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解できるようになる。	◎				○		
	社会的養護Ⅰ				○	授業終了後、「子どもの最善の利益」のための社会的養護とは何かを、個人で考えることができる。	◎				○		
	社会的養護Ⅱ				○	①子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解できる。 ②施設養護及び家庭養護の実際について理解できる。 ③社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解できる。 ④社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解できる。 ⑤社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解できる。	○				◎		
	保育者論				○	①保育者の役割と倫理について理解することができる。 ②保育者の制度的な位置付けを理解することができる。 ③保育者の専門性について考察し、理解することができる。 ④保育者の連携・協働について理解することができる。 ⑤保育者の資質向上とキャリア形成について理解することができる。	○				◎		
	保育の心理学				○	①保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達をとらえる視点について理解する。 ②子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。 ③乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人ととの相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。	◎			○			
	子ども家庭支援の心理学				○	①生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期段階の重要性、発達課題等について理解できるようになる。 ②家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得できるようになる。 ③子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解できるようになる。 ④子どもの精神保健とその課題について理解できるようになる。	◎			○			
	子どもの理解と援助				○	①保育実践において、実態に応じた子ども一人ひとりの心身の発達や学びを把握することの意義について理解できるようになる。 ②子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解できるようになる。 ③子どもを理解するための具体的な方法を理解できるようになる。 ④子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解できるようになる。				◎		○	
子どもの保健				○	①小児の健康の定義を学び、健康の保持増進を図りQOLの向上を目指す実践力を身に付けることができる。 ②小児の発育や生理機能の発達にあわせた適切な保育内容を実践することができる。 ③新生児期、乳児期、幼児期、各期における精神運動機能発達の特徴について正しく理解することができる。 ④小児の健康状態の把握と主な病気の特徴及び予防、対応についての実践力を身に付けることができる。					◎		○	

2020年度入学生 幼児教育学科カリキュラムマップ

分類	授業科目名	開講期				授業科目の到達目標	幼児教育学科の学修成果 (◎＝達成のために、特に重要な事項 ○＝達成のために、重要な事項)			
		1年次 2020		2年次 2021			1-1	2-1	3-1	3-2
		前期	後期	前期	後期		幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。	幼児教育・保育に必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力を身に付けている。	保育者としての使命や社会的責任を自覚し、子どもが健やかに育つ社会の実現に向けて行動することができる。	多様な社会において、他者を尊重し、相互理解を深めて協働しようとする意欲や関心を持ち、生涯にわたって主体的に学び続ける姿勢を有している。
保育に関する専門科目	子どもの食と栄養Ⅰ	○				子どもの食と栄養の特性とその重要性を理解することができる。子どもの発育・発達段階に応じた適切な食生活がイメージできるようになる。	◎	○		
	子どもの食と栄養Ⅱ			○		①食育の必要性を理解し、その取り組みについての考えを持つことができる。 ②家庭や児童福祉施設での食事、特別な配慮を要する子どもの食事について、保育者として食と栄養に関する指導の実践がイメージできるようになる。	○	◎		
	保育内容総論	○				①保育所保育指針や幼稚園教育要領等における「保育目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解することができる。 ②保育所保育指針や幼稚園教育要領等の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解することができる。 ③子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景や保育の内容の歴史の変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)につなげて理解することができる。 ④保育の多様な展開について具体的に理解することができる。	○	◎		
	乳児保育Ⅰ	○				①乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割等について理解できるようになる。 ②保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解できるようになる。 ③3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解できるようになる。 ④乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解できるようになる。	◎	○		
	乳児保育Ⅱ			○		①3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解できるようになる。 ②養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解できるようになる。 ③乳児保育における配慮の実践について、具体的に理解できるようになる。 ④上記①～③を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解できるようになる。		◎	○	
	子どもの健康と安全			○		①子どもの健康状態を常に把握し、異常の早期発見、病気の予防、健康教育および応急処置や看護について理解し、実践できる知識と技術を習得することができる。 ②子どもの安全に留意し、事故防止および安全な保育環境についての知識と技術を習得することができる。 ③養育環境と心の健康問題などは地域保健活動との連携のもと、実践力を身に付けることができる。	○		◎	
	障害児保育Ⅰ			○		①障害児保育を支える理念や歴史の変遷について学び、障害児及びその保育について理解できるようになる。 ②障害児その他の特別な配慮を要する子どもの子どもに家庭への支援や関係機関との連携、協働について理解できるようになる。 ③障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解できるようになる。	◎	○		
	障害児保育Ⅱ			○		①個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解できるようになる。 ②障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解できるようになる。			◎	○
	子育て支援Ⅰ			○		卒業後、保育の現場でそのまま使えるような技術・知識を体得できる。		◎	○	
	子育て支援Ⅱ			○		①子育て支援の意義と原則について学び、子育て支援の基本を理解できるようになる。 ②子育て支援の実践を学び、内容や方法を理解すると共に実践力が持てるようになる。		○	◎	
	保育実習Ⅰ(保育所)			○		①保育所の役割や機能を具体的に理解できるようになる。 ②観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深めることができるようになる。 ③既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解できるようになる。 ④保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解できるようになる。 ⑤保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解できるようになる。	◎	○		
	保育実習Ⅰ(施設)			○		①児童福祉施設の内容、機能等を実践現場での体験を通して理解できる。 ②既習の強化全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を養うことができる。 ③保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体化について学ぶことができる。	○	◎		
	保育実習指導Ⅰ(事前)			○		①保育実習の意義・目的を理解できるようになる。 ②実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にすることができるようになる。 ③実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解できるようになる。 ④実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解できるようになる。	◎	○		
	保育実習指導Ⅰ(事後)			○		①保育実習Ⅱで学んだことを土台とし、保育者としての知識、技術を身に付けることができるようになる。 ②実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にすることができるようになる。			◎	○
	食育論(子どもと食生活)			○		①食育の必要性を理解することができる。 ②子どもの食と健康の現状を理解することができる。 ③バランスのよい食事のあり方を理解することができる。 ④食事と心の健康の関連性について理解することができる。 ⑤子どもに対する食育の重要性を理解することができる。	◎		◎	
食生活基礎技術演習			○		食育の必要性を理解し、保育者の立場として、具体的に取り組まなければならない食育・食農についての知識や技術を身に付けることができる。	◎		○		

2020年度入学生 幼児教育学科カリキュラムマップ

分類	授業科目名	開講期				授業科目の到達目標	幼児教育学科の学修成果 (◎＝達成のために、特に重要な事項 ○＝達成のために、重要な事項)			
		1年次 2020		2年次 2021			1-1	2-1	3-1	3-2
		前期	後期	前期	後期		幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。	幼児教育・保育に必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力を身に付けている。	保育者としての使命や社会的責任を自覚し、子どもが健やかに育つ社会の実現に向けて行動することができる。	多様な社会において、他者を尊重し、相互理解を深めて協働しようとする意欲や関心を持ち、生涯にわたって主体的に学び続ける姿勢を有している。
保育に関する専門科目	保育カウンセリング			○		①子どもや保護者との関わりにおける受容・共感的な態度をとることができる。 ②保護者とのコミュニケーションがとれるようになる。		◎	○	
	子どもの遊びと文化				○	①児童文化財について研究し、子どもの遊びと文化について理解を深めることができる。 ②児童文化財の制作と遊びの実践をとおして、保育者として子どもたちの遊びを援助することができる。	○	◎		
	伴奏法				○	①コード伴奏付けができるようになる。 ②音楽的な弾き歌いができるようになる(簡易伴奏含む)。 ③保育の場面を想定した音楽活動ができるようになる。	◎	◎		
	造形表現研究				○	保育者としての造形表現力を深め、造形表現活動の援助に必要な実践力を身につける。	◎	◎		
	保育実習Ⅱ				○	①保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深めることができるようになる。 ②子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深めることができるようになる。 ③既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解できるようになる。 ④保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深めることができるようになる。 ⑤保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解することができるようになる。 ⑥実習における自己の課題を明確化することができるようになる。		○	◎	
	保育実習Ⅲ				○	①児童福祉施設(保育所以外)、その他社会福祉施設の養護を実践に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得することができる。 ②家族と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養うことができる。			◎	
	保育実習指導Ⅱ				○	①保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解できるようになる。 ②実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得できるようになる。 ③保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解できるようになる。 ④保育士の専門性と職業倫理について理解できるようになる。 ⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にするようになる。		◎	○	
	保育実習指導Ⅲ				○	保育所以外の児童福祉施設への就職を希望する学生を対象とするために、即戦力となる現場での実践力と施設養護の最新の知識を身に付けることができる。			◎	